

## 【文部科学大臣賞：中学生の部】

### 「心友」

佐賀県・私立佐賀清和中学校  
2年 中野 みちる さん

私には心でつながる友人、Mさんがいます。「心でつながる」と書いたのには理由があります。Mさんは脳出血後遺症の重度の失語症で、ほとんど言葉が出ないのです。私の言っていることはだいたいわかってくれるのですが、Mさんからの返事は、表情やジェスチャー等から、私が想像することになります。そうして、言葉がなくても、Mさんと私はいろいろな話ができるのです。

Mさんとの出会いは、私が四歳の時です。言語聴覚士である母のところで、Mさんがリハビリをしていたのがきっかけでした。初めてMさんと会った時のことは、今でもとても印象深く、良く覚えています。母が私を紹介すると、Mさんは緊張したような表情で、黙って私に左手を出してきました。私も左手を出して、ぎゅっと握手をしました。今思うと、Mさんは右半身が完全にマヒしているために、左手での握手だったのです。

それからというもの、Mさんは幼稚園から帰る私を、楽しみに待ってくれるようになったのです。会えた日は、私は幼稚園でのこと等を、Mさんにたくさん話しました。何も言わず、笑顔でうなずきながら話を聞いてくれたMさん。Mさんが、なぜしゃべらないのか、そのころの私は不思議と疑問に思わなかったような気がします。

Mさんは失語症になってから、病院以外の所に出かけることがほとんどなくなってしまった、ということでした。病院でも自分の思ったことがうまく伝わらないと、怒って杖をふり回したりした、と聞きました。しかし、私と接している時はいつも優しい笑顔ばかりで、怒った顔は一度も見たことがありません。

五歳になり、バレエの発表会への出演が決まった私は、思い切ってMさんを誘ってみることにしました。プログラムを見せながら、バレエを見に来て欲しいと言うと、Mさんは大きく何度も何度もうなずき、チケットを受け取ってくれました。

もし本当に、バレエの舞台を見に来てくれるなら、それがMさんにとっての大きな一歩だと思った、とだいぶ後になって母が言いました。当時の私は、そんなことは考えず、純粹に発表会に来て欲しいと思ったのです。

発表会当日、Mさんは奥さんと一緒に、花束を持って来てくれました。Mさんは、カレンダーに丸をつけて、発表会の日を心待ちにしてくれていたそうです。奥さんから

「ステキな舞台に招待してくれてありがとう。たくさん拍手をしながら見たのよ。」

と言われ、うれしくて何回もジャンプしたことを今でも覚えています。

この夏休み、久しぶりに M さんに会う機会がありました。声をかけると、初めはわからなかったのか、少し驚いたような顔をしていましたが、すぐに笑顔を見せてくれました。そして、私の頭に手を置き、それから腰のあたりまで手を下ろして私を見ました。

「こんなに小さかったのに、見違えるほど大きくなったね。」

そんな M さんの言葉が、私にははっきりと聞こえてきました。

言葉というのは、お互いの気持ちや考えを伝え合うための、ひとつの手段ではないと思います。M さんは、私にとって、たくさんのことを教えてくれる大切な友人です。言葉がなくても、相手のことを本当に想う気持ちがあるのなら、人と人は心と心で理解し合えるということを教えてくれた、最高の心友です。